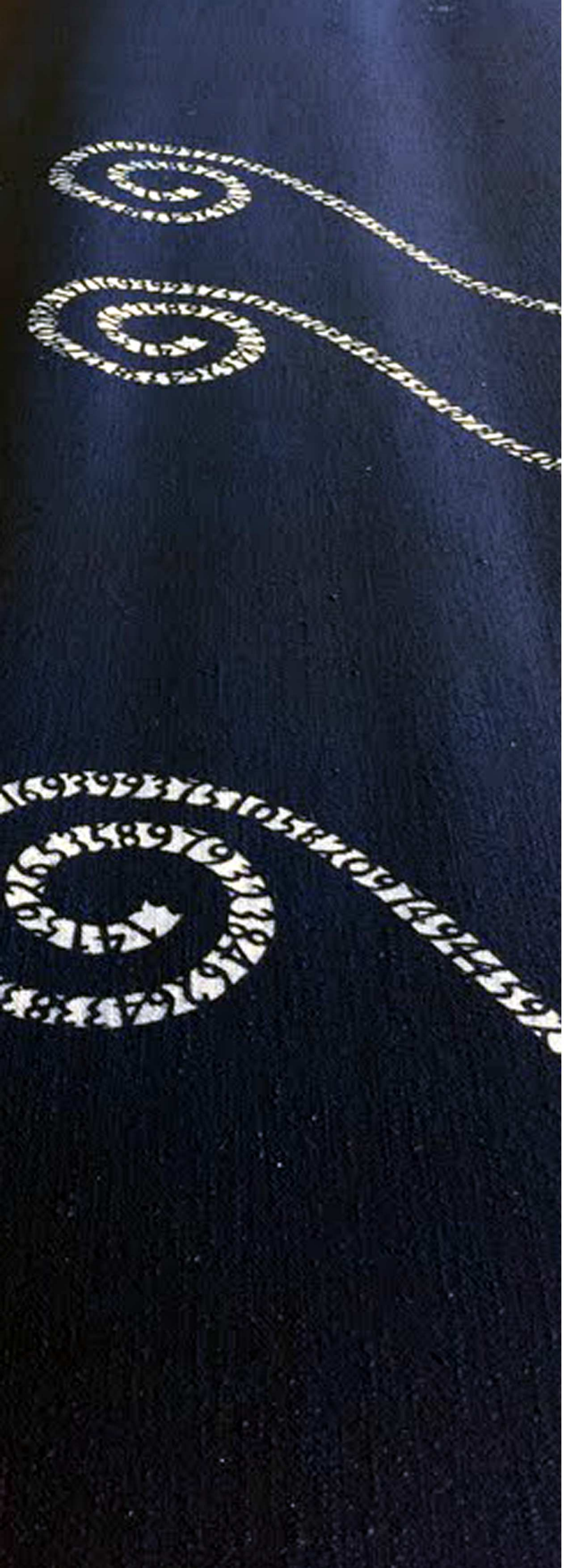


# 2012年春
# かわうそ兄弟商會
# 藍染製品カタログ

かわうそ兄弟商會

# かわうそ兄弟商會について

かわうそ兄弟商會は、藍染製品の製造販売を手掛ける会社です。

かわうそは川辺に棲む水生哺乳類で、かつては北海道から九州まで日本全国に広く見られる獣でした。
河童伝説の源になったとも言われ、日本人には身近な動物でした。
ところが良質な毛皮を持つ故に、乱獲され、第２次世界大戦後は環境破壊もあいまって、数がさらに減少、
1977 年以降は目撃もされていない幻の動物となってしまいました。

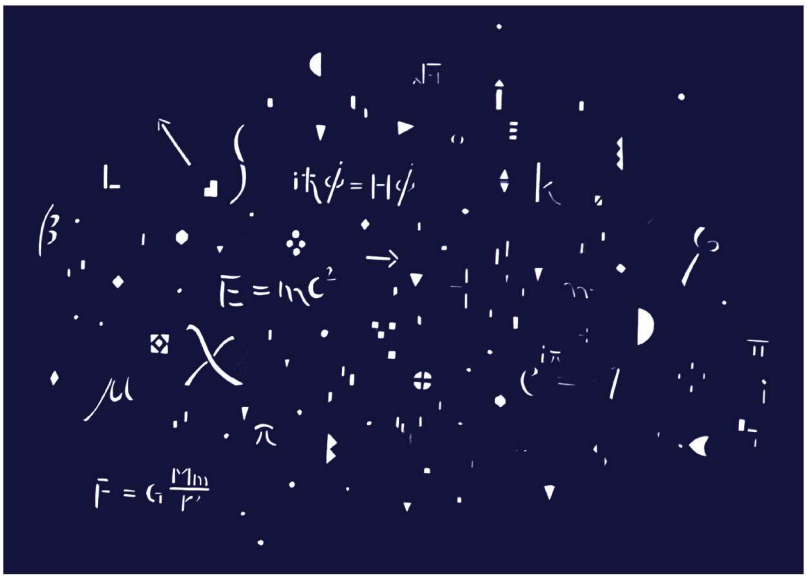
かわうそが日本中の川で見られた、明治の初め、日本にやってきた外国人は、日本人が身分によらず皆、
藍で染めた美しい着物を着ていることから、藍色を Japan Blue と名づけました。

しかしながら、合成染料の発明により、安価かつ大量に染料が作られるようになったため、
手間の掛かる天然の藍染はすたれ、今ではかわうそ同様に絶滅の危機に瀕しています。
私たちは、藍染の溢れていた美しいかつての日本の姿をかわうそに重ねています。
また、かわうそは捕らえた魚をそのまま食べずに、供物のように川岸に並べる習性があることから、
古来から中国では書物を紐解き、詩文を創作する人を、獺祭魚と呼んでいます。
正岡子規が自らを獺祭書屋主人と呼んでいたことも知られています。
かわうそ兄弟商會はこの故事にもあやかっています。

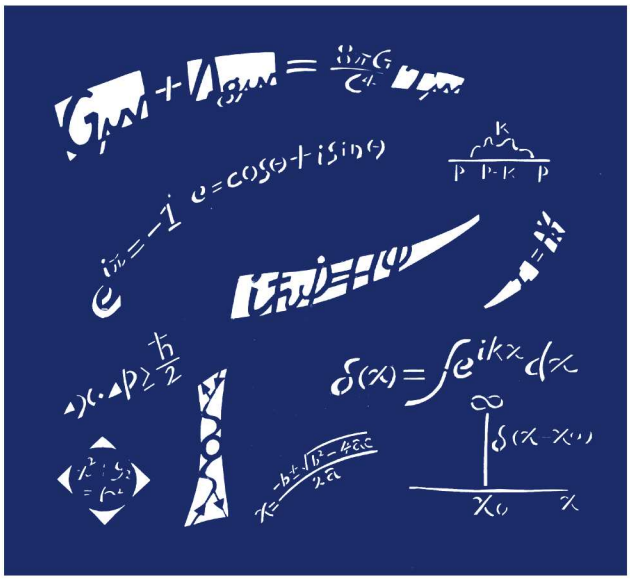
# かわうそ兄弟商會のデザイン

型染めは、渋紙を彫った型（ステンシル）を使って布の上に糊を置き、その形を残すように染め上げます。
このユニークなデザインはかわうそ兄弟商會のオリジナル。私たちのアイデンティティです。
これらの型を製品に組み合わせることで無限の可能性が生まれます。

## 記号天の川

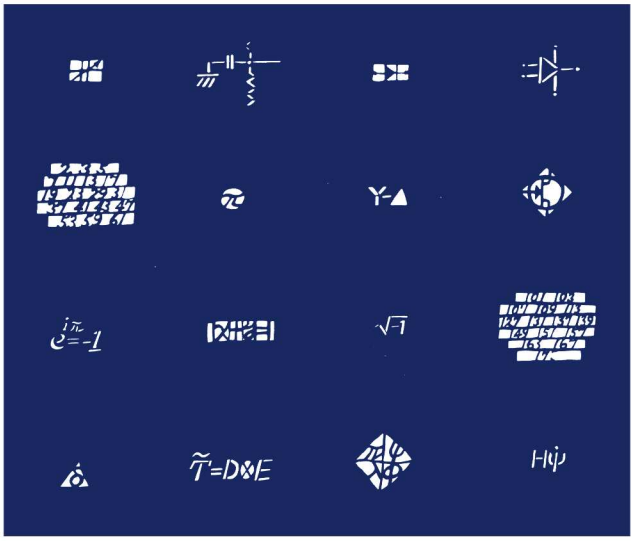



## 方程式ちらし

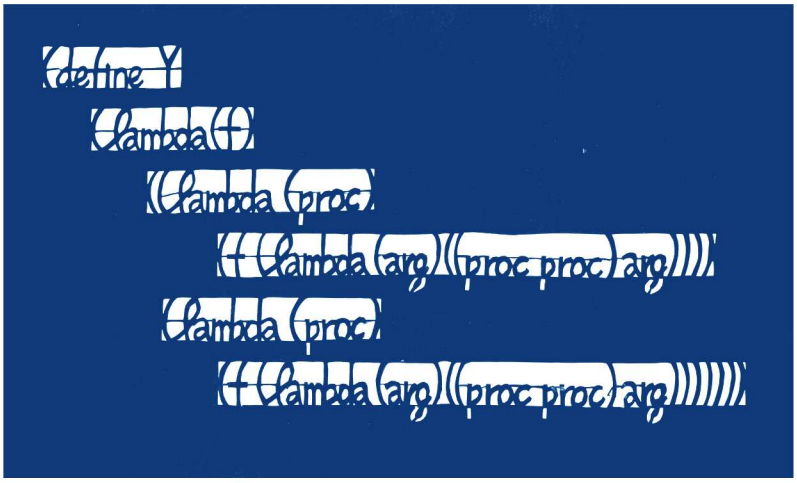



## 円周率わらび

## 記号アソート



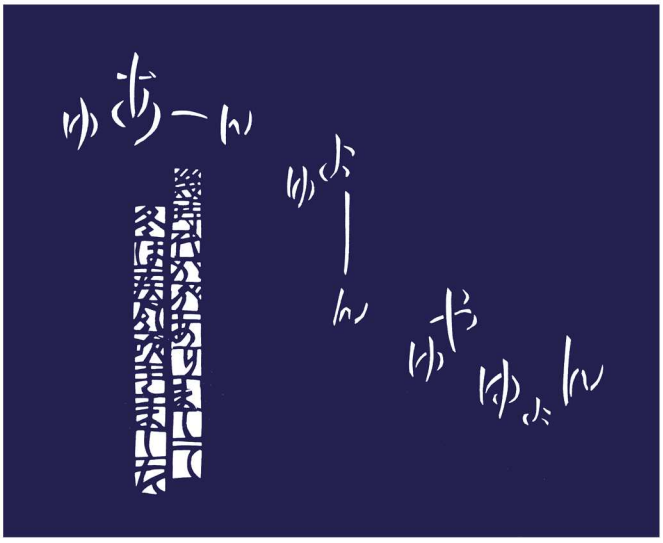
## Y コンビネーター



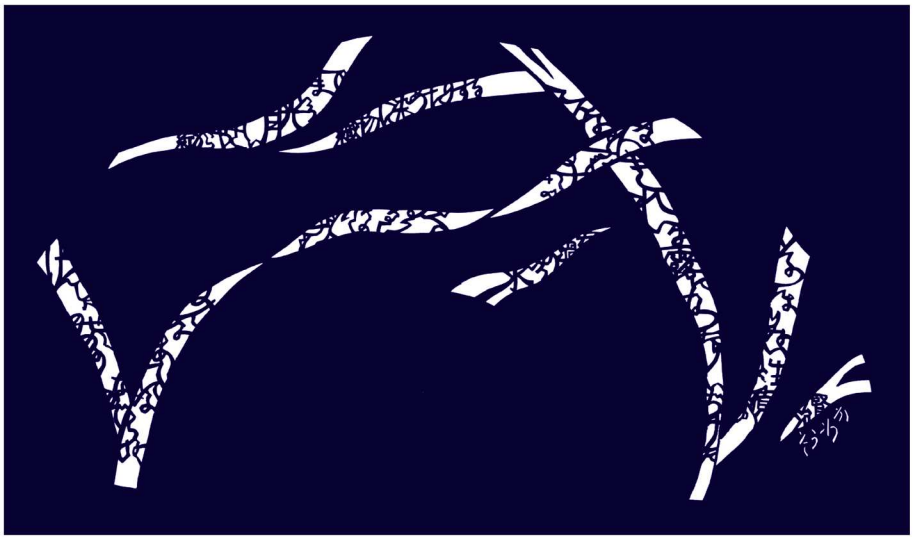
甲骨文字

宮澤賢治「雨ニモマケズ」

中原中也「サーカス」



宮澤賢治「過去情炎」



# 藍 Pad

Apple 社 iPad 専用のケースです。
iPad を藍染布でくるむインナーケースタイプ（三面開き）と、
iPad を入れて持ち歩けるトートバッグタイプの２種類があります。
伝統の藍染から、最新の iPad を取り出した時のインパクトは抜群、
男女ともにお使いいただけるデザインです。

インナーケース（三面開きタイプ）オイラーの公式

インナーケース（三面開きタイプ）
Ｙコンビネーター

# 藍ブックカバー

もめんの手ざわりが心地よいブックカバーです。
かなり厚さのある本もしっかりカバーします。
市販のブックカバーを使っていて、ん？と感じるのは、
天地サイズにゆとりがありすぎて、本との一体感がいまひとつなところ。
かわうそのブックカバーは、フィット感のある天地サイズになるよう、
一枚一枚、心がけて縫っています。
文庫版と新書版の二種類をご用意しました。

藍ブックカバー 宮澤賢治の詩シリーズ「青森挽歌」

# 藍てぬぐい

江戸の昔から生活の必需品として広く愛されてきた手ぬぐいを
日本伝統のすくも藍による本藍染によって美しく染め上げた逸品です。
Ｙコンビネーター、各種数式、電気回路の記号など理工学系のモチーフをデザインしました。
わかる人にはわかる、こだわりの伝統工芸と現代の科学技術の組み合わせの妙をお楽しみください。

藍てぬぐい「記号天の川」（手前）、「方程式ちらし」（左奥）、「素数」（右奥）など

藍てぬぐい「Ｙコンビネーター」

# 藍扇子

扇子のすぐれた点は、携帯に便利なことはいわずもがな、
大きく広げて思いっきりあおぐだけでなく、混んだ電車や劇場などで、
少しだけ広げてささやかな涼をとれるところ。
気配りを忘れない、粋な日本の知恵で coolbiz といきましょう。

かわうそ兄弟商會の藍扇子は、一枚一枚、糊置きをし、
一枚一枚、藍甕に浸して染めた生地を使っています。
仕立ては、京都の扇子職人さんが手がけています。

藍扇子 宮澤賢治「過去情炎」

2012 年春かわうそ兄弟商會藍染製品カタログ

2012 年 1 月 1 日 初版発行

発行元：合同会社かわうそ兄弟商會
152-0023 東京都目黒区八雲 2-18-21-105
TEL: 03-3725-5541
URL: http://www.kawausokyodai.co.jp
MAIL: kawausokyodai@gmail.com